※令和４年度以降入学生用

学校番号	1003

令和８年度　情報科

教科	情報	科目	情報Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	情報Ⅱ　（東京書籍）						
副教材等	情報Ⅱ　資料ノート　（東京書籍）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

教科書等を用いた座学とコンピュータやタブレット端末を用いた実習を組み合わせながら授業を行います。
情報Ⅰで学んだ基礎知識を基に、情報Ⅱでは社会人としての生産・制作者としての立場を理解し、活用できる高度な情報活用能力を身につけます。
この授業では座学と実習どちらも実施する授業です。主体的に授業内容が理解できるように、集中して取り組みましょう。

２　学習の到達目標

・様々な場面における問題を解決するために、情報検索やデータ活用、資料作成や説明などが可能な高度な情報活用能力を持っている。
・身近なテーマから、様々な事象に対し「なぜ」「何」を追求し、根拠を探りながら研究することができる。
・情報を適切に運用することができ、危機管理や法を順守するための情報セキュリティ能力が身についている。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・情報やメディア、システムの活用や方法論を理解している。 ・情報を活用するうえで、危機管理や法を順守できる情報セキュリティに関する知識が身についている。 ・問題解決に対し必要な知識をもち、多様な生産・制作手段を活用して解決することができる。	・様々な事象を多角的に思考・探究し、根拠をもって他者に説明することができる。 ・情報機器を高度に活用し、効果的な解決策を考え、提案することができる。	・根拠を探るためにたくさんの情報を得ようとしている。 ・問題解決に向けて、他社と協働するために自ら役割分担を行い、プロジェクトマネジメントを実施している。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	情報社会の進展と情報技術	○問題解決学習と協働学習 ○情報システム ○情報の流れとは ○情報モラルと法整備	a:問題解決学習のステップを理解し、解決に向けた手段や情報モラル等を身につけている。 b:情報社会の法整備や情報モラルについて考え、行動することができる。 c:情報社会の問題解決を通して、自らも望ましい情報社会に主体的に参画しようとしている。	資料 ノート 実技 課題 定期 考査	資料 ノート 実技 課題 定期 考査	行動の 観察 振り返り シート
	コミュニケーションの多様化	○コミュニケーション手段の分類と特徴 ○うわさの研究 ○情報デザイン	a:情報の抽象化・可視化・構造化を理解できる。 b:効果的なコミュニケーション手段や情報デザインについて考えることができる。 c:粘り強く、多様な意見をまとめようとしている。	資料 ノート 実技 課題 定期 考査	資料 ノート 実技 課題 定期 考査	行動の 観察 振り返り シート
	メディアの特性と利用	○メディアの特性 ○学校 PR ブログの作成 ○情報発信	a:メディアの特性を理解できる。 b:特性に応じたメディアの利用を判断できる。 c:粘り強く、わかりやすい学校 PR ブログを執筆しようとしている。	資料 ノート 実技 課題 定期 考査	資料 ノート 実技 課題 定期 考査	行動の 観察 振り返り シート
	人間の知的活用への影響	○機械学習と人工知能	a:人工知能・機械学習、深層学習の関係を理解できる。 b:人工知能やロボットなどの情報技術の利用と課題を考えることができる。 c:未来の社会に対し、自らがどのような働きをすればよいのか考えようとしている。	資料 ノート 実技 課題 定期 考査	資料 ノート 実技 課題 定期 考査	行動の 観察 振り返り シート

※令和４年度以降入学生用

2	社会にあふれるデータ	○データの収集と整理 ○データベース管理システム ○テキストマイニング ○データの分析と分類 ○好きなものをマップにしよう	a:データの分類や特性、収集と整理について理解できる。 b:適切なデータの扱いについて考えることができる。 c:協力して積極的にデータの収集を行い、粘り強く分析に取り組んでいる。	資料 ノート 実技 課題 定期 考査	資料 ノート 実技 課題 定期 考査	行動の 観察 振り返り シート
	モデルの評価と検証	○データモデル ○ガチャの研究	a:モデルの過剰適合や多重共線性の可能性を理解できる。 b:モデル化やシミュレーションをプログラムで試すことができる。 c:プログラムの一部を変更し、より適切なモデルを検討している。	資料 ノート 実技 課題 定期 考査	資料 ノート 実技 課題 定期 考査	行動の 観察 振り返り シート
	情報セキュリティ技術	○情報システム ○情報セキュリティ	a:情報システムの信頼性の重要さを理解し、そのための考え方を理解できる。 b:情報システムのサービスを利用することによる暮らしの変化、効果や影響を考えることができる。 c:より良い暮らしをするために必要な情報システムを創造しようとしている。	資料 ノート 実技 課題 定期 考査	資料 ノート 実技 課題 定期 考査	行動の 観察 振り返り シート
3	情報システムの設計	○設計の流れ ○プロジェクトマネジメント	a:情報システムの設計の流れや考え方、プロジェクトマネジメントとは何かを理解している。 b:システム開発のための役割分担をし、進捗表を使ってプロジェクト管理ができる。 c:システム開発において、責任をもって自らの担当に取り組んでいる。	資料 ノート 実技 課題 定期 考査	資料 ノート 実技 課題 定期 考査	行動の 観察 振り返り シート

※令和４年度以降入学生用

	情報システムのプログラム	○プログラミング実習（掲示板開発）	a:人にわかりやすいプログラムを書くことの重要性とその実現のためのプログラムの書き方を理解できる。 b:システムの動作確認を適切にしている。 c:掲示板作成に積極的にかかわり、自らの担当を責任をもって取り組んでいる。	資料 ノート 実技 課題 定期 考査	資料 ノート 実技 課題 定期 考査	行動の観察 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度